

緊急事態宣言が解除されました

兵庫県の緊急事態宣言は解除され、安心した方も少なくないかと思いますが。実際に宣言前よりは明らかに患者数が減り、現在は第三波のピーク時のおよそ六分の一、第二波の時と同程度の患者数で、鳥取県や島根県などの元々患者数が少なめだった県は、患者数が 0 という日もあります。

しかし今のところ患者数はそこで下げ止まりを起こしており、また重症患者は第二波の時よりは多いです。それでも重症患者は第三波ピーク時の半分以上にはなったのですが、場合によってはまた患者が増えていくでしょう。油断はできません。

工房の日々

緊急事態宣言の解除から、工房に来る人は数が戻りだしたように感じます。少し前は一日中誰も来ない日もしばしばありましたが、今ではそのような日は少なくなっています。工房に来る所員さんが、多少なりとも安心感を得て外出の機会を増やしているのだろうと感じます。

一月の終わり頃から工房で word の勉強をしている A さんは、こういう勉強となると高い集中力を発揮しており、かなりのペースで教材の内容を進めています。今は word の資格取得を目標としており、かなり意欲的です。

感受性も高く、教材の中でも難しいと感じた部分を自分の力でやれた時には喜んでそれを見せてくれます。また、彼女は自分の作った word 資料を逐一印刷しており、それを家族に見せながら作成時の事を話しています。そういった事を



自分で説明するのはやや苦手なようでしたが、実に生き生きと生活できていると感じられます。

他の方々も、最近は勉強や工賃仕事のために工房に来る回数が増えてきており、緊急事態宣言の有無と無関係とは考えにくいです。とはいえ、まだ新型コロナウイルスが完全に無くなったわけではない以上、外出の際にはマスクなどの感染症対策に注意して行動してください。工房には消毒液も十分にあります。

今後の予定

今後の予定は未定です。

※所員さんには、決まり次第お知らせします。



東日本大震災から 10 年が経ちました

2011 年 3 月 11 日の大地震から、今月で 10 年が経過しました。もう随分と昔の話のようですが、現地では復興が完了したとは言えない状態が続いているようです。

避難者は震災当時の十分の一以下にまで減少しましたが、それでも四万人以上の避難者はまだ故郷に帰っていません。彼らが住む事になる住宅について、政府による宅地造成や公営住宅は昨年 12 月で計画分を建設し終えたところですが、その数はそれぞれ 1.8 万戸と 3 万戸程度に対し、自主再建が成された住宅は 15 万件を超えます。日本の平均世帯人数は今や三人以下という事実を考えると、あと一万戸分の住宅を建てても足りません。

そしてそれらを差し置いても、原発事故の跡地の除染が未だ終わっていないという事実があります。上述した問題は民間の業者による援助も十分に考えられるものですが、こちらはまず根本的な対処のノウハウが日本どころか世界に無いという問題が根幹にあると考えていいでしょう。30 年以上前のチェルノブイリ原発事故にも文字通りの『ふた』をした以上の対応は出来ておらず、研究者の画期的なひらめきを期待するしかないのが世界の現状です。

福島県という括りでは復興は確かに進んでおり、農業や水産業については震災前に近い水準まで回復してはいますし、日常生活が送れるレベルで各種施設や交通網が復興できていますが、原発事故のあった県という風評はやはり付いて回っています。本来なら 2020 年のオリンピックを「復興五輪」としてそれを解消する筈だったのですが、突如として流行りだした新型コロナウイルスによってオリンピック事態が中止の憂き目に遭い、そんな場合ではなくなってしまったのが残念です。今年こそオリンピック開催まで持っていく事が出来れば、それは二重の意味での復興五輪という事ができるでしょう。

ありがとう 要さん

3 月 10 日に所員さんの要宗雄さんが突然の末期がんのためお亡くなりになりました。

中学時代からサッカー筋で活躍され、障害を持たれてからも障害者の国際大会に出場されたり、地域のサッカーチームの監督をされるなどの地元のサッカー仲間や地域の方々から頼られ愛されていたお方でした。

工房でも絶えず、私たちスタッフや所員さんたちにも優しく気を使ってくださり、私たちスタッフにできない細かい大工仕事をしてくれたり、尼うえるフェアやミーツ・ザ・福祉の販売会のとき、いつもカレンダーや東北支援の物品を車で運んで荷物の搬入など手伝って下さったり、野菜市、花見、クリスマス会にはいつも地元のサッカー仲間を集めて、手伝って頂き、場の雰囲気盛り上げてくれる頼れるお父さんのような存在でした。

「パソコンなんか、今まで俺したことがないから、分かんわ」「俺が下手に触って、パソコンが壊れたら所長が難しい問題させるから悪いやのだから壊れたら責任もって、所長直しや」と言いながら、パソコンを老後の第 2 の趣味として、楽しみながら Excel や Word の中級までのテキストを繰り返し何度も分かるまでされていました。

特に年賀状のシーズンになると、工房で購入した年賀状の素材集からすべてのサッカーの干支のイラストをダウンロードされて、楽しんで毎年、何種類を作られていたことが印象的で、工房との良き思い出に刻まれています。

本当に要さんは、大事な所員さんであると同時に、良き工房の理解者でも協力者でもあったので、要さんには色々お世話になったので、きちんと感謝の気持ちやお礼を伝えて、お別れをしたかったのですが突然のお別れになってしまい、悔やんでも悔やみきれません。

要さん今までたくさんの良き思い出、そして工房へのご尽力頂き、ありがとうございました。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

所長 曲 圭子